

学習・発達論		非常勤講師 宮野祥雄	
科目カテゴリー	教職科目	科目ナンバリング	25200202

1. 授業のねらい・概要

「人格の発達状態に適した学習」「人格の発達を育む学習」の必要性を説き、発達及び学習と教育心理学について述べる。学校には健常児及び障害児、両者のボーダーライン部分に位置する子ども、現実には健康と病気の間を揺れ動く子どもが存在する。彼らが望ましい発達を遂げていくために必要かつ適切な揺さぶりともなる学習と指導について概説する。

本講義の受講者は、講義内容をもとに研鑽を積んで欲しい。さすれば、「健常児・障害児」における心身の発達や、ある内外の圧力に適した学習と指導の仕方を知得することができる。発達を促し育む幾つかの揺さぶりのかけ方を自己のものとすることもできよう。

2. 授業の進め方

講義及び演習。質疑応答の時間を設ける。

3. 授業計画

1. 本講義の意義と目的：①教育心理学と学習・発達論について、②本講義のねらい 2. 発達の概念、発達の原理 3. 発達段階：乳児期・幼児期・児童期・青年期・成人期・老年期 4. 心理面の発達①：精神的自立性の発達 5. 心理面の発達②：個人的価値体系の発達 6. 心理面の発達③：認知的発達 7. 学習理論、レディネス 8. 動機づけ、教授－学習法 9. 評価 10. 研究方法 11. 指導上の留意点・健常児：①健常児とは、②乳児期・幼児期における指導上の留意点	12. 指導上の留意点・健常児：③児童期・青年期における指導上の留意点 13. 指導上の留意点・障害児：①障害児と教育、②視覚障害児・聴覚障害児・知的障害児・肢体不自由児・言語障害児・病弱児・自閉症スペクトラム障害児・情緒障害児 14. 指導上の留意点・障害児：学習障害児・注意欠陥／多動性障害児・重複障害児 15. 指導における留意点・“健常児－障害児”：健常と障害の境界に位置する子ども、②健常と障害の間を揺れ動く子ども ※15 回目の授業時にまとめを行う。
---	---

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

シラバスや参考文献をもとに今回の講義内容を理解しようとの思いを抱いて講義に臨んで欲しい。各講義における受講準備として、予習を、1 時間程度行って欲しい。各講義の復習を必要に応じて行って欲しい。この復習に最低 30 分程度は時間をかけて欲しい。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

上記の各回における講義のまとめ時とその次の回における導入の時間に、学習してきた基礎的かつ基本的な知見の理解度をチェックする。定期試験の終了時に試験の解答を説明する。

6. 授業における学修の到達目標

授業の各回において取りあげる基礎的かつ基本的知見を理解し、自己のものとする。

7. 成績評価の方法・基準

定期テストの結果(100%)を、評価の対象とする。

8. テキスト・参考文献

テキストは使用しない。参考文献を、次に示す。

高野清純監修 川島一夫編 1991 図で読む心理学 発達 福村出版。高野清純監修 新井邦二郎編 1991 図で読む心理学 学習 福村出版。永野重史/依田 明 共編 1976 教育心理学入門 新曜社。牛島義友・坂本一郎・中野佐三・波多野寛治・依田新編 1973 教育心理学新辞典（三版）金子書房。他の参考文献については授業時に説明する。

9. 受講上の留意事項

4 日以上欠席者は定期試験の資格を失う。